

# これからもつと 富裕層 になるための ファンド選び

第4回

## 金融危機時の 資産形成法

前回お伝えしたときからまた世界情勢も大きく変化し、アメリカに端を発する世界的金融危機が広まりつつある今、いったいわれわれはどういうスタンスをとっていくべきなのか。投資アドバイザーという職業のなかで幾度も金融危機をくぐってきた著者が明かす金融危機への対処法。

How to become A Billionaire?!

# 私

は、今日まで、投資アドバイザーの仕事  
を20年程やってきま  
した。そして、世界の金融危機  
を経験してきました。1993  
年のメキシコ通貨危機、  
1994年のアジア通貨危機、  
1997年のロシア危機と大手  
ヘッジファンドLTCM破た  
んによるヘッジファンド危機、  
2001年のITバブル崩壊  
と9・11テロによる金融危機な  
どです。いずれの場合も、各国  
中央銀行が、大量の資金を市場  
に供給し、また機動的に利下げ  
をし、公的資金を危機的な金融  
機関に貸し付け、または出資す  
ることで、この危機を乗り越え  
てきました。

ところが今回の、サブプライ  
ム問題から始まった世界的な信  
用収縮は、とどまるところを  
知らない状態です。ベアスター  
ン証券の破たんから始まり、  
リーマンブラザー証券の破たん、  
メリルリンチ、AIG、ワシ  
ントンミューチュアルの実質的  
破綻と数々の金融危機を乗り越  
えてきたこれらの老舗金融機関  
が、長い歴史を閉じました。こ  
れは、通常の金融危機ではあり  
ません。100年に一度起こる  
かどうかのマナーマーケットを  
根本から破壊してしまいかねな  
い巨大金融危機です。このまま  
では、恐慌に発展する可能性も

あります。問題になっている証  
券化商品というのは、証券会社  
が、銀行や貯蓄付組合から大  
量のリスクの高い住宅ローン  
(サブプライムローン)を買い  
取り、これらを組み合わせて、  
新たに仕立てた資産担保証券  
(CDO)です。この時に、リ  
スクの低いローンも多少組み込  
むことで、CDOの格付けを  
上げて、販売しやすいようにし  
ていました。

また、ある会社に対する債権  
額の保障と保障料を交換するク  
レジットデフォルトスワップ  
(CDS)も投資銀行、ヘッジ  
ファンドの参加で、巨額の金額  
になりました。これらの、クレ  
ジットデリバティブ商品は、実  
際のマナーマーケットの時価総  
額の何倍もの金額になっていま  
す。米国発の金融危機というの  
は、つまり、信用構造に基づい  
たこれら証券化商品、クレジット  
デリバティブのバブルの崩壊  
を意味するのです。世界のマネ  
ーマーケットは、急速な信用収  
縮を起こしており、円滑な資金  
の流れが阻害されています。世  
界的な株式市場の下落、コモデ  
イティ市場の下落、短期金利急  
騰、米ドルの下落、などなどま  
だマーケットの異変は始まった  
ばかりなのです。

このような投資環境の中で資  
産を増やす方法は、あるのでし



10月3日午後、上院が1日可決した緊急経済安定化法案(金融安定化法案)の修正法案を賛成多数で可決。しかしその後も金融危機は食い止められる様子もなく……  
©ZUMA/amana images

ようか? 何もしないで、キャ  
ッシュの比率を高めて、じっと  
この嵐が過ぎ去るのを待つのが  
いいのでしょうか? 確かに、  
それも良い選択肢の一つです。

このような状況で、闇雲に投資  
するよりはよほど良い選択です。  
しかしながら、このようなマ  
ーケット環境でも、大きく資産  
を築く方法があります。まず、  
ひとつは、オーストラリアのジ  
ュニアマイニング株です。これ  
は、前回も紹介しましたが、鉱  
物資源の埋蔵量が確認されてい  
て、これから商業生産が行われ

る会社です。

こういった株も世界的な株価  
下落で、大きく値下がりがしてい  
ます。中には手持ちの現金が  
100億円もあるのに、会社の  
価値、つまり時価総額が70億円  
というような、明らかに、ナン  
センスな株価にまで売り込まれ  
ている会社もあるのです。たと  
えば、亜鉛の鉱山会社のCBH  
社は、手持ち資金が125百万  
豪ドルあるのに、時価総額が50  
百万豪ドルという現象が起こり  
ました。これは、いずれ、最低  
限、会社の現金と埋蔵されてい

# ジュニアマイニングや マネーマーケットに左右されない商品 ランドバンキングなどで、 金融危機下に資産を築く

る亜鉛の時価に合わせた金額を反映する株価まで戻るとみています。私は、実際に、0・05ドルから0・08ドルとの間で100万株以上買いました。現在は、理論価格に戻りつつあります。

もう一つは、運用収益が、マネーマーケットの動きに左右されない商品に投資することです。オーストラリアには、裁判に投資するファンドがあります。かなり高い確率で勝てる訴訟にお

金を投資するわけです。オーストラリアでは、自分の訴訟費用をファイナンスすることは、法律で求められています。倒産した企業が、国に先払いした税金取引先へ先渡ししたお金を取り戻す訴状は、かなり高い確率で勝てます。こういう訴訟20件ぐらいに投資します。このファンドの運用者は、数人いますが、全員弁護士です。

平均運用利回りが約40%で運用されています。現在、今年最後のファンドを募集していますが、訴訟の数に限りがありますので、金額もせいぜい1億円ぐらいです。まさに、知る人ぞ知る秘密のファンドですね。

平均運用利回りが約40%で運用されています。現在、今年最後のファンドを募集していますが、訴訟の数に限りがありますので、金額もせいぜい1億円ぐらいです。まさに、知る人ぞ知る秘密のファンドですね。

これからもつと

## 富裕層

になるための  
ファンド選び



Photograph by Yoshinobu Ogawa

### 上中康司氏

1962年生まれ。88年、神戸大学大学院工学研究科修了後、日本債券信用銀行入行。その後、シティバンク、クレディスイスファーストポスト証券、住友キャピタル証券、日本インベスターズ証券を経て、2000年、エルエドットコム株式会社設立。02年、社名をエフエーストック株式会社に変更

この記事に関するお問い合わせは  
SEVEN HILLS ☎ 0120-077-917  
コンシェルジュ 受付/月～金曜日10:00～18:00(祝日を除きます)  
E-mail:ccginfo@7hills.ne.jp